

高橋幸雄教授と吉植庄栄准教授のご退任に寄せて

英語文化学科 学科長 新沼 史和

今年度末をもって、高橋先生と吉植先生がご退任になります。ここに、お二人の先生の教育および教育の業績を紹介し、本学へのご貢献に心より感謝申し上げます。

高橋先生は、2002年4月に盛岡大学文学部助教授として着任し、翌年に教授とされました。先生の研究対象は、理論言語学、科学哲学、とりわけ音韻論です。1985年に研究社出版より発刊された、現代の英文法シリーズ第3巻『音韻論』は、その当時の言語学を学ぶ学生にとっては必ず読まなければならないテキストでした。ほかにも、1992年に三省堂書店より出版された『現代英文法辞典』では、音韻論関係の項目のご執筆をご担当され、非常に簡潔に解説をなさっています。本学科では、「言語学演習 A (意味)・C (音韻)」や「英文法 I・II」などの科目を担当され、学生に親身になってご指導なさっておられます。指導した学生には巣立っても慕われ続けており、これは先生の誠実な人間味あふれるお人柄の一端を示すものです。私が大学生のときに、先生から音韻論を学びましたが、今でも覚えているのが、勉強会です。一文ごと丁寧に論文を繙いていくことによって、論文の読解の基礎を身につけることができました。大変お忙しい教育・研究の傍ら、文学部長・学長代行者・図書館長・英語文化学科長・情報システムセンター所長などといった役職・職責を果たされてきました。

吉植先生は、長らく他大学の附属図書館でのご勤務の後、2018年4月に准教授として本学文学部に着任されました。ご担当される科目は、図書館情報学に関する科目がメインであることに加え、学芸員課程の「博物館情報メディア論・博物館教育論」そして、教職課程の「教育学概論・教育における ICT 活用」などの科目もご担当され、まさにマルチにご活躍されました。先生のご研究は、「図書館学の五法則」(The Five Laws of Library Science)を提唱した、インドの図書館学者 S.R. ランガナタン (Shiyali Ramamrita Ranganathan, 1892-1972)の研究であり、彼の功績を日本に広く紹介なさっています。この五法則は、図書館だけではなく、研究や探究活動においても有効であり、高校でのご講演も多く行っておられました。教育研究活動の傍ら、2020年より本学図書館副館長を務められました。授業もユニークで、「パパパコメント」を用いた授業を展開し、とても学生に人気がある、とお聞きしております。先生は、いつも柔和な物腰で、インドの軍事パレードのお話など、ユニークな体験談をお話いただきました。

高橋先生、そして、吉植先生、お二人の先生のご退任は本当に残念なことではありますが、先生の数々のご業績およびご献身に感謝を申し上げます。そして、先生方の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈りしております。